

「社会的条件」を重視した授業実践の開発

— 中学校社会科地理的分野『世界各地の人々の生活と環境』を題材に —

南 明頼
教科領域コース

1. 研究の目的と意義

本稿は、中学校社会科地理的分野『世界各地の人々の生活と環境』を題材とした筆者自身の授業実践による反省や研究授業への参観及びそこでの分析等を踏まえ単元の再構想を行い、今後の実践への示唆をしようとするものである。

本単元について学習指導要領より、「環境」に関わる「自然的条件(自然的要因)」のほかに「それらを取り巻く環境」に関わる「社会的条件(社会的要因)」と関連させて学習させていくことが必要不可欠である。また、「社会的条件(社会的要因)」については、経済、文化、宗教など地理的な側面にとどまらず歴史的、公民的な側面とも大きく密接している。よって、本単元を題材に「社会的条件(社会的要因)」を重視した授業実践を開発することで、単元内で課題解決に向かって適切な探究活動を行うことができるほか、これからの社会科の学習において本単元を通して涵養された「社会的な見方・考え方」を生かすことができるのではないかと考える。

2. 実践の分析

筆者は本研究に先立ち、水戸市立見川中学校での授業実践及び茨城大学教育学部附属中学校での研究授業への参観をしてきた。ここではこの二つの実践を分析して明らかになったことについてそれぞれ述べていくものとする。

前者については、令和5年5月29日から見川中学校で三週間実習を行い、第1学年の2(3)クラスを対象に本研究単元において7時間の授業実践を行った。1時間目については、サウジアラビアの事例を通じて、人々の生活が「自然的条件」と「社会的条件(社会的要因)」の二つと関連していることへの理解を図る授業実践を行った。授業実践を通じて学習目標は達成されたが、単元を通じて「自然的条件」と「社会的条件(社会的要因)」の関連を図る構成にすることへの困難や学習を進めるにあたって生徒に前提となる知識が必要となる点などから、2時間目以降については指導書を参考に構成した授業へと変更した。2時間目以降の授業では「教科書の各ページに記載のある気候区分について雨温図や写真などからその特徴を理解し、それぞれについて明確に差別化を行うのみとなってしまう、その結果「自然環境決定論」的な内容への偏り」が出てしまった。

後者については、令和5年6月29日に茨城大学附属中学校で行われた研究授業及び研究協議会に参加してきた。そこで行われた『世界各地の人々の生活と環境』の授業実践及び配布指導案の分析により、「単元課題の設定およびそれに伴う単元の流れ」と「本単元における「社会的環境」の扱い方」の二点について気づきを得た。一点目については、単元を帯状に捉えて学習の流れ計画することで、宗教についての内容を含めて6時間で単元課題の解決まで行っていることである。本単

元は本来8時間扱いであり、宗教についての内容を終えるまでに7時間かかるが、上記の点を工夫することで探究活動に必要な時間を確保できているということは、授業実践を開発する上で非常に参考となった。二点目については、前者で述べた見川中学校での授業実践の際には、筆者が1時間で「自然的条件」と「社会的条件(社会的要因)」について理解を図ろうとしていたのに対して、研究授業の指導案を分析した結果、授業者が2時間かけて「社会的環境(社会的条件), (社会的要因)」について理解を図ろうとしていたことが大きな違いであった。この点についても一点目と関連して、授業実践を開発する上で非常に参考となった。

3. 現行の指導書による地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の課題について

「2.」では、見川中学校での地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の授業実践について述べてきた。そこでは実践した二時間目以降の授業について、「指導書を参考にしたもの」と述べた上で、課題や改善点について書き記してきた。ここでは、地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」について、現行の指導書ではどのような指導方法が推奨されており、そのような指導方法で授業実践を行った場合どのような課題が出てくるかということについて「2.」での記述と関連させながら見ていくものとする。

筆者は指導書より、指導方法の特徴として二点見出すことができた。一点目は、単元全体として学習が「知識・技能」の習得を重視しているということ、二点目は一点目と関連して、単元名にある「環境」と「生活」について、「環境」については「知識・技能」、「生活」については「思考・判断・表現」と大きく分けているということである。まず一点目についてだが、本単元の七時間全ての時間で「知識・技能」の評価が行われている。具体的には、「読み取っている」、「身に付けている」、「理解している」といった主に三つの文言が文末に来ており、このことからそれに該当する学習活動が毎時間行われていることが分かる。そして二点目についてだが、各時間の学習目標二つを大きく分けると、片方が「自然環境について理解する」というニュアンスで書かれたものであり、もう片方が「生活の特色について考察する」というニュアンスで書かれたものであることが分かる。

しかし一方で、ここまでの内容を完全に否定しきれない点がある。それは、本単元は、『世界の諸地域』や『日本の諸地域』学習へとつながる重要な単元であり、この単元の学習を通して「地誌的内容の基本的な部分を抑える」ということが必須となるため、「知識・技能」の習得が重視されることは十分に現実的であるということである。そのため再構想に当たってはこの点も配慮した。

4. 「社会的条件(社会的要因), (社会的環境)」を重視した授業への再構想

以上「1.」～「3.」を踏まえて、地理的分野『世界各地の人々の生活と環境』において、「社会的条件(社会的要因), (社会的環境)」を重視した授業への再構想を行った。表1は、本単元の指導計画である。

表1 指導計画

時間	学習内容・活動	評価計画			指導内容
		知 技	思 表	主 体	

1	世界各地の気候区分とその特徴といった「自然的環境」について理解する。	○			「自然的環境」について写真や雨温図などから特徴が理解できるようにする。
2	写真や資料の読み取りを通して、「自然的環境」と「社会的環境」について理解する。	○			生活において「自然的環境」と「社会的環境」が関係していることを理解できるようにする。
3	温帯を事例に、人々がどのような「環境」で暮らしているかスライドの作成を行いながら考える。		○		必要な情報を整理しどのように活用していくか意識させることで、学習課題に沿ったスライド作成が行えるようにする。
4	人々が「どのような「環境」で暮らしているか」をテーマに、一つの気候区分について個人でロイロノートにまとめる。			○	学習課題や社会的環境の確認を通して探究活動の目的や目標を明確にすることで、課題解決に向かえるようにする。
5	同じ気候区分を担当した生徒のスライドを確認し、気になった点を話し合い、修正や改善をして発表準備を行う。			○	生徒同士の話し合いを通して、前時に作成したスライドを改善し、よりよい発表が行えるようにする。
6	グループごとに作成したスライドについて発表を行い、それをもとに単元課題について考える。			○	発表を通じて学習課題について考えさせるとともに、単元全体の学習から単元課題に立ち返り解決できるようにする。
7	写真や宗教分布図の読み取りを通して、主な宗教の特徴について理解する。	○			写真や宗教分布図などから、主な宗教の特徴について理解できるようにする。

第一時で単元課題の確認を行い、その解決に向かって単元を通じて「自然的環境」及び「社会的環境」の視点から学びを進められるよう指導計画を設定した。特に第四時・第五時では、これらの視点を用いた探究活動を取り入れた。(表2)

表2 指導案(第四時・第五時二時間続きのものを作成)

学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
1 前時に学級で作成したスライドと教員がそのスライドを改善したものを比較し、スライド作成について確認する。	○ 前時に学級で作成したスライドから画像の活用方法は変えず見やすく整理したものを生徒に見せることで、前時の活動を生かしながら改善もできるように促す。
2 学習課題をつかむ 人々は、どのような「環境」の中で暮らしているだろうか。実際にスライドを作成して考えてみよう。	○ 「環境」という言葉については繰り返し強調し、「自然的環境」と「社会的環境」について考えられるようにする。
3 課題解決を図る (1) 五人グループを作成し、温帯を除く五つの気候区分の中から発表を担当するものをそれぞれ一つ選ぶ。 (2) 同じ気候区分を担当した生徒同士で集まり、その気候帯の社会的環境について確認する。 ○寒帯 ・イヌイットの暮らしとその変化 →文化と技術革新について	○ 発表を担当する気候区分については、くじびきなどを用いてランダムに選ぶことでどの気候区分を担当することになっても公平になるようにする。 ○ 前時では温帯の社会的環境について学級全で確認したが、本時では生徒同士で確認を行うため、教科書や資料から読み取りが行えるよう活動について具体的な指示を出すほか、机間指導を行いそれぞれの気候帯の社会的環境について正しく読み取れているか確認する。

<p>○冷帯 ・暮らしの変化 →生活様式の変化と「環境」問題</p> <p>○乾燥帯 ・焼畑農業や遊牧・放牧 →国際的な「環境」問題</p> <p>○熱帯 ・伝統的な暮らしの変化 →技術革新, 観光開発</p> <p>○高山気候 ・伝統的な暮らしの変化 →技術革新, 観光開発</p> <p>(3) 個人活動に戻り, フォルダの画像を用いて, スライドを作成する。 ここまでで1時間(全体の4時間目)</p> <p>(4) 同じ気候区分を担当した他の生徒のスライドを確認する。</p> <p>(5) 同じ気候区分を担当した生徒同士で集まり, スライド作成や発表について気になった点を確認し合う。</p> <p>(6) 個人での活動に戻り, スライドの修正や改善を行い, 発表の準備を行う。</p> <p>4 (3-(7)) 発表に向けた最終調整を行う 5 2時間の活動の振り返りを行う</p>	<p>○ 教科書や提示した資料の読み取りを主な活動とするが, 必要に応じて各気候帯の画像フォルダから画像を確認し, 社会的環境と関連があるものについてどのようなことが読み取れるか確認させることで, スライド作成が行いやすくなるよう促す。</p> <p>○ 各気候帯の社会的環境については, 机間指導を行いながら確認が落ち着いたグループについては簡潔に説明してもらい, 教科書や資料から読み取ってほしい情報が整理できたグループから個人でのスライド作成を進めるよう声をかける。</p> <p>○ 個人で他の生徒のスライドを確認する時間を確保するようにする。</p> <p>○ 生徒が画像検索を行うことは禁止するが, 使いたい画像についての要望を聞き適宜フォルダに画像を追加していくようにする。</p> <p>○ 前時の個人でのスライドづくりで気づけなかった点や気になってた点についてよりよいものになるように促す。</p> <p>○ 残り時間でスライドの作成や発表の準備を完成させるように伝え, 個人での最後の仕上げに集中させる。</p> <p>○ 第三時までの学習の時点から活動を通してどのように変わったか振り返りをさせる。</p>
---	--

第三時で温帯を事例に学級全体でスライド作成を行ったことを踏まえて, 第四時・第五時では個人でスライド作成を行う。担当する気候区分について, 「環境」の視点からスライドをまとめる。その後第六時では, スライド発表を通じて第三時から続く学習課題の解決を図るとともに, 単元課題の解決も図る。

5. 本研究の成果及び今後の課題

本研究における成果は, 指導書を参考にした授業実践を筆者自身が事前に行っていたことで見えてきた課題と研究授業への参観によって発見された改善点を踏まえて授業実践の開発を行えたことだと考えている。これらの気づきを通じて開発した授業実践では, 現行の指導書を参考にして行う授業実践と比べて大幅に課題が改善されているのではないかと筆者は考えている。

一方で課題も残されており, 筆者は大きく三点考えられる。一点目は指導書の検討を一つしか行っていないということ, 二点目は研究授業の授業者に事実確認を行っていない点, 三点目は開発した授業を実践できていない点である。以上のように, 本研究は一定の成果を示しながらもそれを超える多くの課題が残るものとなった。これらの研究課題を解決すべく, これからも研究及び実践を重ねていきたい。